

住まいの現状を表す

現況図を描いてみる

住宅改修や増改築を考えると、まず初めに、現在の住まいの現状を知ることが大切です。

単に間取りを知ることだけでなく、高さやそこに置かれている家具やモノの大きさ、壁面の状況、そこでの暮らし方までを含んでいると考えます。その現状をできるだけ詳しく記録するには、まず平面図が必要です。

平面図がある場合は、その図面が1/100の縮尺か1/50か、それとも確実な縮尺に基づいていないものかを三角スケールを使って確認します。1/50以外の縮尺であれば縮小、拡大コピーを使い1/50の縮尺にしておきます。いろいろな寸法を計り、それを平面図におとしていくときに一番気をつけなければならないのは、「縮尺をそろえる」ということです。例えば平面図と家具の大きさの縮尺がちがっていると、広い部屋に小さな家具があり、あたかも自由に車いすで動きまわれるスペースがあるような錯覚におちいります。これでは確実な現状を知ることができません。

平面図がない場合は実測することによって平面図を作成しなければなりません。実際の生活の場ではメジャーをつかって実測していくのは時間も手間もかかるので、できるだけ簡単な方法で平面図をかく必要があります。右ページでは物差しを使わないで図面を描く一つの方法について説明します。

1. 用意するもの

- メジャー（3mが便利）
- 筆記用具（HB、B程度の鉛筆）
- 10mm方眼紙（A4またはB4）
- トレーシングペーパー（B4またはA3）
- ハサミとのり
- カメラ

2. 物差しを使わないで図面を書く

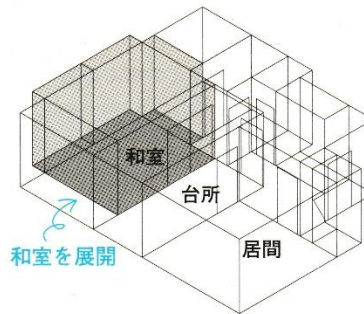
方眼紙（10mm方眼）を使い、1マスを450mm四方として書いていきます。それは建築材料の多くが910×1820≒900×1800（3×6版）でできているので約1/50の縮尺で書くときに910mmを表すのに2マスを使うと考えられるからです。現場でメジャーをあてての寸法確認は最小限にします。それによって現場での平面図を書く時間を短縮することができます。

3. 平面図に書き込むこと

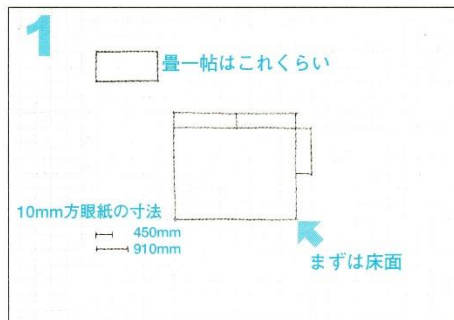
- ①段差を表現する。段差のある箇所に印をつけ、その高さの差を記入する
- ②建具の幅
- ③家具、空調機、ストーブ、冷蔵庫など
- ④スイッチ、コンセント、照明
- ⑤仕上げの材質
- ⑥主な動線
- ⑦その他気のついたことをメモ書き、あるいはスケッチで残す
- ⑧平面図だけだと高さ関係がわからないので、右ページ2のように平面の周りに展開図を書く方法もある
- ⑨こまめに写真を撮っておく（P208参照）

ここではケース-2を例にとりあげます。

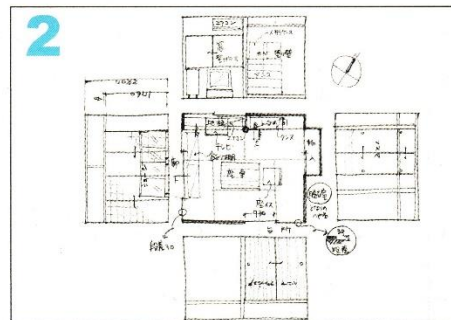
初めから家全体をつかもうとするとスケールアウト（縮尺がまちまちになること）したり、全体がつながらなくなったりします。1部屋ごとに書いていくとわかりやすく、その部屋の情報が正確になります。



和室の見取り図の書き方

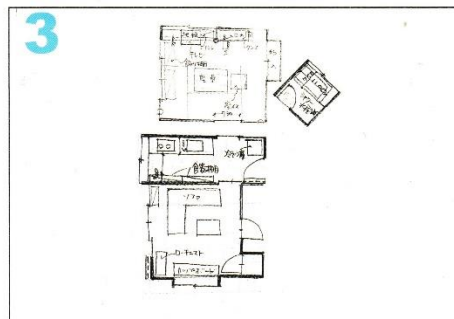


- 1部屋ごとに描く
- 10mm方眼紙に描く（2マスを910mmとして描く）
- 平面図を中心に描く

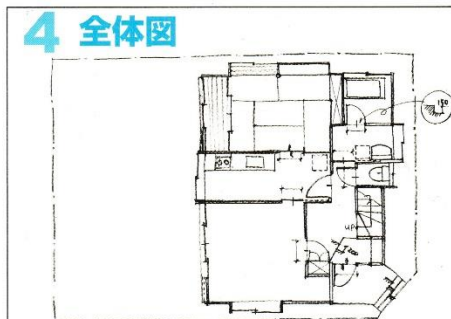


- 平面図の周囲に各面の展開図を描く（起こし絵になるようにする）
- 方位、隣接する部屋名を描き込む

各部屋の平面図をつなげて全体図をつくる



- 各部屋の平面図を完成したら、コピーし、切り取る
- 大きめの紙の上に、切り取った平面図をつないで貼り合わせ、家全体の平面図をつくり上げる



- 貼り合わせた紙の上に描き込みにくいので、コピーし、全体図を完成させる
- トレーシングペーパーを重ねて下図をなぞり、改造案を考える際に役立てる（P83参照）

大きさ、高さ、幅を知っておこう

空間やモノの大きさの見当をつけるには、比較的よく使われる寸法を覚えておくのも一つの方法です。

内法高（うちのりだか）

ドアや障子、襖などの高さを言います。自分の身長を基準に測ってみて下さい。

開き戸の幅

有効寸法は、790mmから広くても850mm程度です。トイレのドアは狭いことが多く、600mm前後と考えればよいでしょう。

掃き出しサッシ

現在でも尺貫法にのっとって寸法がきめられています。ただし関西と関東とでは大きさが異なるので、自分の住んでいる地域がどうなっているのか調べて下さい。

畳の大きさ

幅910mm×長さ1820mmの柱間に入る大きさが標準ですが、「団地サイズ」といわれるコンクリート造の和室の畳は小型になっています。畳の大きさも関東と関西では異なります。

タイルの大きさ

50mm角のモザイクタイル、100角、150角、200角、300角が一般的です。

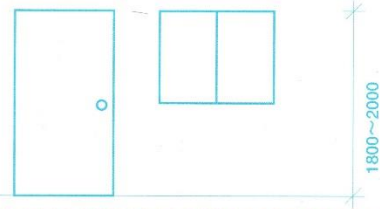
テーブルの高さ

650～720mmが一般的です。

椅子の座面の高さ

400～450mmが一般的です。

■ 内法高（窓や出入口の高さ）



■ 開き戸



■ 掃き出しサッシ



■ 畳の大きさ



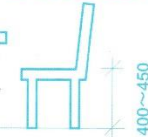
■ タイルの大きさ



■ テーブルの高さ



■ 椅子の座面の高さ



■ 車いすの大きさ



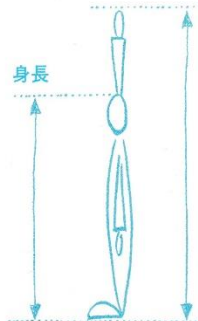
自分の身体の寸法を知っておこう

設計にかかわる仕事をするには、空間やモノの大きさを感覚的に把握できるようにしておくことが大切です。この感覚を身につけるには、日頃からいろいろなモノを測ってみることをおすすめします。自分が一番よいと思う寸法をメモし、ストックする習慣をつけておくと、設計時に役立ちます。

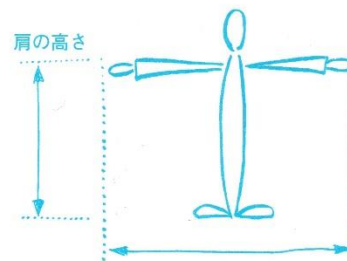
メジャーを持っていないときでも、気軽に測ってみるためには、自分の身体の寸法を知っておくと便利です。

右の図に自分の寸法を記入し、覚えておくと、例えば家さがしをしたり、家具を買ったりするようなときにも使うことができます。また、歩幅を知っておけば、長い距離を測ることもできます。

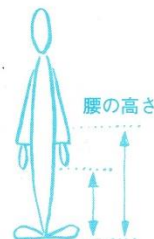
■手を挙げた時の床からの高さ



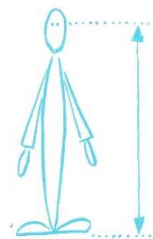
■手のひらを広げた長さ



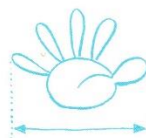
■手を降ろした時の床からの高さ



■目の高さ



■両手を広げた長さ



■両足を並べた時の長さ

